

Kobe City Chamber Orchestra

# 神戸市室内合奏団

## 定期演奏会

第138回 定期公演

2017

神戸公演

**3.9** 木 Thu.  
19:00 開演 (18:30 開場)

神戸新聞 松方ホール

Kobe Shimbun Matsukata Hall

東京公演

**3.11** 土 Sat.  
14:00 開演 (13:30 開場)

紀尾井ホール

Kioi Hall



時流を読む者—正統から独創を築き上げた人々—

## 春。ロマン派交響曲の誕生

R. シューマン：交響曲ト短調 WoO 29「ツヴィッカウ」(前田昭雄編)

Robert Schumann : Symphonie in g-Moll "Zwickauer" ,WoO 29

W.A. モーツァルト：ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K.453

Wolfgang Amadeus Mozart : Konzert für Klavier und Orchester Nr.17 in G-Dur,K.453

R. シューマン：交響曲 第1番 変ロ長調 Op.38「春」

Robert Schumann : Symphonie Nr.1 in B-Dur,Op.38, "Frühlings-Symphonie"



指揮：石川星太郎 Seitaro Ishikawa



ピアノ：ソフィー = 真由子・フェッター Sophie-Mayuko Vetter

入場料 (全席自由)

一般/前売 **2,700円** (当日 3,000円)

学生 (大学生以下) **1,000円** (前売・当日共)

- \* 学生券は神戸文化ホールプレイガイド及び、カジモト・イープラスのみの取り扱いになります。購入時に学生証をご呈示下さい。
- \* 就学前のお子様のご入場はご遠慮下さい。
- \* やむを得ず、出演者、プログラムを変更する場合がございます。
- \* 「神戸音楽友の会」会員の方は、無料でご鑑賞いただけます。

入場券販売場所

神戸公演 発売開始 11/23(水・祝)

松方ホールチケットオフィス 078-362-7191  
神戸文化ホールプレイガイド 078-351-3349  
ローソンチケット 0570-084-005 Lコード: 57062  
チケットぴあ 0570-02-9999 Pコード: 315-264  
CNプレイガイド 0570-08-9999  
イープラス <http://eplus.jp>

東京公演 発売開始 12/3(土)

カジモト・イープラス 0570-06-9960  
<http://www.kajimotoeplus.com/>  
チケットぴあ 0570-02-9999 Pコード: 315-245  
イープラス <http://eplus.jp>  
紀尾井ホールチケットセンター 03-3237-0061

## 春。ロマン派交響曲の誕生

シューマンの初めてのオペラ体験は、ライブツィヒで観たモーツァルトの「魔笛」であった。多くの音楽家たちの例にもれず、シューマンにとっても、モーツァルトをはじめヴィーン古典派の大家たちを研究することは、バッハ研究と同じく重要な修行であったに違いない。

ファン・スヴィーテン男爵によってヴィーンにもたらされたバッハ父子の作品、とりわけエマニュエルの音楽の新しい息吹は、ヴィーン古典派の大家たちを通して、後に続く世代のシューベルトにも受け継がれたに違いない。

1839年1月1日、シューベルトの兄フェルディナントを訪ねたシューマンは、「大ハ長調交響曲」の未出版の筆写譜を見せられ、その素晴らしいことに仰天する。その楽譜がライブツィヒに送られ、3月21日にゲヴァントハウスで、メンデルスゾーンの指揮によって演奏されていなければ、この曲の真価が世界に知られるのはもう少し後になっていたかもしれない。この交響曲から大いにインスピレーションを与えられたシューマンは、長らく目標としていた、ドイツ人による真にロマン派的な交響曲を書くことに着手した。「文学の人」シューマンらしく、アードルフ・ベットガーの詩の一節「谷間には春が燃え立っている」から靈感を得て書き進められた交響曲第1番「春」は、1841年、ついに完成を見た。3月31日にメンデルスゾーンの指揮でゲヴァントハウスにおいて初演され、大成功を取めたその日の日記にシューマンは、「僕の人生のうちでもっとも重要な日のひとつ」と記している。

2014年度以来、3月定期に、なかばシリーズとして登場してきたシューマン作品。今年度は、一般に採りあげられることの少ない「ト短調交響曲」がプログラムの開始を告げる。「春」から遡ること9年、1832年の秋に故郷の街で書かれたことから、「ツヴィッカウ交響曲」とも呼ばれるこの曲は、第4楽章までスケッチが行われていたにもかかわらず未完のまま終わってしまったが、22歳の若き日のシューマンの試みを聴く貴重な機会となる。デュッセルドルフのシューマン大学で研鑽を続け、学生ながら助手に抜擢されている石川星太郎が、ふたつの交響曲でどんな演奏を聴かせてくれるか、期待が集まる。

モーツァルトのピアノ協奏曲K.453は、弟子のパルバラ・フォン・プロイヤーの為に書かれた2曲目の協奏曲であることから、「第2プロイヤー」と呼ばれることもある。モーツァルトが、自作自演するピアノ協奏曲シリーズで大成功を収め、ヴィーンの寵児だった頃の1784年に書かれた曲である。ソリストに、近年ヨーロッパでの活躍が目されるソフィー=真由子・フェッターを迎え、指揮の石川との共演によるモーツァルトは、瑞々しいもうひとつの「春」を会場に呼び込んでくれることだろう。

(ミュージック・アドバイザー：菅野ポッセ美智子)

## Profile

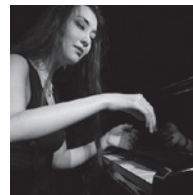


### 石川星太郎

Seitaro Ishikawa

1985年東京生まれ。ドイツ・フライブルク国際ピアノアカデミーに2年にわたり参加。東京藝術大学指揮科で田中良和、ハンス＝マルティン・シュナイトに師事。同科を首席で卒業。アカンサス音楽賞受賞。

2006年武生国際音楽祭にて、ジャパンアカデミーフィルハーモニックを指揮し、ヴィオラの今井信子などと共演。以降、同音楽祭のレギュラーメンバーとなる。また、今は亡き巨匠ゲルハルト・ボッセの薫陶を得、アシスタントとしての任も担った。現在はロベルト・シューマン大学デュッセルドルフ・指揮科でリュエディガー・ボーンに師事。ジャパンアカデミーフィルハーモニック常任指揮者。2013年以降、神戸市内合奏団の3月の定期演奏会(神戸と東京公演)に3度客演している。



### ソフィー=真由子・フェッター

Sophie-Mayuko Vetter

札幌生まれ。父はドイツ人で現代音楽家のミヒャエル・フェッター、母は日本人。4歳からピアノ、倍音唱法、音楽理論と作曲を学ぶ。6歳で家族とともにドイツへ移住、倍音唱法のデュエットを作曲し150曲以上を記録した。7歳でザルツブルクのモーツァルトウムでピアノリサイタルを開く。

8歳の時、自身の作曲したオリジナル作品集「音絵」が西ドイツ放送協会ラジオ局の特集番組で放送された。9歳で史上最年少でフライブルク音楽大学のVorklasseに入学。これまでにE.ピヒト＝アクセンフェルト、ヴィダリー・マルグリス、ロバート・ヒルに師事。2005年、クラシック音楽会の最高峰ザルツブルク音楽祭に、ピアノ協奏曲のソリストとして初出演。音楽評論家ヨアヒム・カイザーは「貴女の演奏はいずれの瞬間も完璧な技術とアーティキュレーションに裏付けられたものです。この第一印象は深く心に残るものでした。エレガントで滑舌な演奏、喚ぶべくデリケートに演奏された装飾音符(この装飾音符は普段は主旋律を押し潰さんばかりに主張され気味です)。これほど麗しく繊細であり見事なまでの技術は、聴いていて嬉々たる気持ちになります。貴女は完成されたピアニストであるだけでなく、感受性深い音楽家でもあります。」と評している。圧倒的な活動実績はもちろんのこと、音楽そのものがそのクオリティーの高さを語っており、受賞歴は十指に余る。ピアニストとして、フォルテピアノや現代のピアノで歴史的な奏法を試みる一方で、現代音楽に深く傾倒し、数多くの名高い作曲家から作品を献呈されている。活発な演奏活動のほかにも音楽学の執筆行動を行い、日本文学を用いたプロジェクトも行った。また多くの国際的なテレビ・ラジオ番組に出演。15歳で国際パークデー受賞デビューCDとしてショパンの「24の前奏曲」を録音して以来、これまでに14枚のCDをリリースした。昨シーズンはブラームス、ルジツカ、リスト、モーツァルト(ハンブルク・シンフォニカ)、マーンコップ(ウィーン放送交響楽団)等のアルバムをリリースした。

オフィシャルHP: <http://www.sophie-mayuko-vetter.de/>

## 神戸市内合奏団

1981年、神戸市によって設立された神戸市内合奏団は、実力派の弦楽器奏者たちによって組織され、神戸、大阪、東京などを中心に、質の高いアンサンブル活動を30数年に亘って展開している。弦楽合奏を主体としながらも、管楽器群を加えた室内管弦楽団としての活動も活発で、バロックから近現代までの幅広い演奏レパートリーのほか、埋もれた興味深い作品も意欲的に取り上げてきた。また、定期演奏会以外にもクラシック音楽普及のための様々な公演活動を精力的に行っている。

1998年、巨匠ゲルハルト・ボッセを音楽監督に迎えてからの14年間で、演奏能力並びに芸術的水準は飛躍的な発展を遂げ、日本を代表する室内合奏団へと成長した。毎年のシーズンプログラムは充実した

内容の魅力あふれる選曲で各方面からの注目を集め、説得力ある演奏は高い評価を受けている。内外の第一線で活躍するソリストたちとの共演も多く、2011年3月の定期演奏会でのボッセ指揮によるJ.S.バッハ「ブランデンブルク協奏曲全6曲」の名演はCDとして、2011年6月のメンデルスゾーン交響曲第3番「スコットランド」他がLPとしてリリースされている。

また、2011年9月にはドイツのヴェストファーレンクラシックスからの招聘を受けてドイツ公演を行い、大成功を収めている。

2013年度からは、日本のアンサンブル界を牽引する岡山潔が音楽監督に就任し、ボッセ前音楽監督の高い理念を引き継ぎ、合奏団のさらなる音楽的発展を目指して、新たな活動を展開している。

